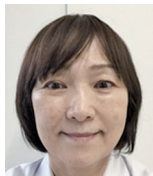


産科麻酔学寄附講座

1. スタッフ



特任教授 すぎた みちこ
杉田 道子

2. 寄附講座の特徴

欧米において産科麻酔学はサブスペシャリティとして確立しているが、本邦では未だ立ち遅れている。新たな取り組みとして本寄附講座は全国に先駆けて2020年4月に開講した。近年社会問題となった無痛分娩管理の問題などから周産期医療の強化において産科麻酔領域の重要性が注目されている。本邦でも無痛分娩に対する需要は急速に高まっており、安全な無痛分娩を提供するため産科麻酔チームの確立が重要な課題である。2018年3月には厚労省による研究班が無痛分娩の安全な提供体制を構築するための提言を公表し、無痛分娩の安全性を担保するために厳しい基準が示されている。「無痛分娩麻酔管理者」、「麻酔担当医」を配置するなど、麻酔科医の積極的な関与が期待されている。本寄附講座では、「無痛分娩麻酔管理者」、「麻酔担当医」の養成を目指し、新しい「無痛分娩研修システム」の構築を行う。質の高い、安全な産科麻酔を提供するための最新研究や診療体制を築くことで、安全性向上に大きく寄与できるものと考えている。

3. 診療体制・診療実績

特任教授を中心として麻酔科スタッフの協力のもと、術前評価のための産科麻酔外来、帝王切開などの産科手術、妊婦の非産科手術、産科出血などの産科救急、および医学的適応を中心とした無痛分娩に対応している。また週1回の周産期カンファレンスにおいて産科、新生児科との情報共有、連携を図っている。

4. 高度先進的な医療の取組

妊婦の高齢化や合併症を有する妊婦の増加から、周産期における全身管理の重要性が増している。また胎児治療、EXITなど高度な周産期管理を要する医療においても産科麻酔を中心として集学的医療を担当科（産科、新生児科、循環器内科、心臓血管外科、耳鼻科、放射線科）と連携しながら行っている。

5. 研究活動

近年増加している妊娠糖尿病の病態解明への基礎研究、心疾患合併妊婦の周産期管理、無痛分娩における薬剤の新生児への影響、無痛分娩が妊婦の胃排泄にどう影響するか、などの研究を行っている。

6. 医療人教育の取組

無痛分娩は諸外国では一般的に行われており、本邦でも無痛分娩を希望する妊婦は増加傾向にあるが、麻酔科医不足のため十分対応できておらず、未だその多くが産科医に委ねられている状況がある。欧米では産科病棟に産科麻酔科医が24時間体制で配置されており、無痛分娩だけでなく緊急の帝王切開や産科救急にも対応し分娩の安全性と質の向上に大きく貢献している。こういった欧米型の周産期管理を実現するためには、産科麻酔を担う麻酔科医を育てていくことが急務である。

本講座は産科麻酔学の魅力を発信し、産科麻酔を志す麻酔科医の養成を行う。

7. 地域医療への貢献

本講座の協力病院である福田病院においては24時間体制の麻酔科医管理による安全な無痛分娩の提供を開始し、そのサポートを行っている。また本講座が拠点となり、熊本県下の産科施設へ情報共有、産科救急時対応のシステムの構築、産科医、新生児科医、麻酔科医一体となった周産期医療を推進していく。「硬膜外鎮痛急変コース」や「母体救命コース」といった産科麻酔に関連した病態対応のための講習会や産科麻酔学セミナーを主催し、産科麻酔の知識や技術の向上に努めている。熊本県の周産期医療の発展に寄与できるものと考えている。